

松嶋夜話 卷之下 61

〔原文〕翌日發於小泉出于途

〔訓読〕翌日小泉を發して途に出ず

〔原文〕歴於元吉四郎古封塚所

〔訓読〕元吉の四郎が古封の塚の所所を歴し

※四郎…人名？四郎？

〔原文〕至横山不動堂

〔訓読〕横山の不動堂に至る

〔原文〕尊之長九尺餘威容儼然

〔訓読〕尊の長さ九尺餘、威容儼然

〔原文〕東奥無雙聖無動也

〔訓読〕東奥の無雙の聖無動なり

〔原文〕此尊此堂先中將君所修飾矣

〔訓読〕此の尊、此の堂、先の中將君の修飾する所や

〔原文〕堂前有池鯉魚夥矣

〔訓読〕堂の前に池有り、鯉魚夥し

〔原文〕僉片目也

〔訓読〕僉片目なり

〔原文〕因曰山於白魚山

〔訓読〕因りて山を白魚山と曰ふ

※白魚山…横山不動尊の山号

〔原文〕簷楣有額字

〔訓読〕簷楣に額字有り

〔原文〕余之肉因從舅先龍寶密寺住持實水法印

〔訓読〕余の肉は因(もと)の從舅、先の龍寶密寺の住持實水法印

※實水法印…よくわかりません

〔原文〕其頃貞享年間公廳新開城府千手院日法印中選居住

〔訓読〕其の頃、貞享年間、公廳新たに城府の千手院を開する日、法印選に中りて居住す

〔原文〕適書此額字

〔訓読〕適たま此の額字を書す

〔原文〕余其時妙齡

〔訓読〕余其の時妙齡

〔原文〕在法印之傍親觀之

〔訓読〕法印の傍らに在り、親しく之を觀る

〔原文〕距今筭指五十有餘年

〔訓読〕今を距て指を筭(せま)ること五十有餘年

〔原文〕法印昔附智積僧正泊如

〔訓読〕法印昔智積の僧正泊如に附く

※泊如運敞(1614~1693)∴大阪に生まれた真言宗の僧。京都智積院で日譽、元寿らに師事した。

〔原文〕習筆意者也

〔訓読〕筆意を習う者なり

〔原文〕余再拜賽願了

〔訓読〕余再拜賽願了りて

〔原文〕出於堂去

〔訓読〕堂を出て去る

〔原文〕投宿柳津驛

〔訓読〕宿を柳津驛に投ず

※柳津町(やないづまち)∴福島県会津地方(奥会津)に位置し、河沼郡に属する町。